

1 課題名 資源管理体制・機能強化総合対策事業（タチウオ）

2 区分 国庫補助

3 期間 平成13年度～平成23年度

4 担当 資源海洋部（内海遼一）

5 目的

タチウオは紀伊水道内域における小型底曳網漁業、紀伊水道外域における延縄・曳き縄漁業の最重要魚種の一つであるが、2000年以降漁獲量が急減しており、早急な資源回復が望まれている。本県では、紀伊水道の小型底曳網漁業を対象とした包括的資源回復計画が平成20年度に開始予定となっており、その計画内容の検討のため、資源のモニタリングおよび近年における生物学的知見の収集を行った。

6 成果の要約

(1) 統計・市場調査：和歌山県農林水産統計年報により和歌山県および箕島町漁協での漁獲量の経年変化を調べた。漁獲量は、県全体で2005年に2,517トン（前年比8%増）、2006年に2,573トン（同2%増）、箕島町漁協で2005年に1,836トン（前年と同水準）、2006年に1,955トン（同6%増）となり、3年連続で横ばいとなった（図1）。漁獲量の経年変化から判断すると、資源状況は2003年が最も低水準で2004年以降やや回復しているものの未だ低水準であり、動向もほぼ横ばいであった。箕島町漁協における銘柄別漁獲比率をみると、2006年は小銘柄の比率が50%を超え（図2）、資源のさらなる悪化が懸念される。

(2) 標本船調査 箕島町漁協の小型底曳網漁船2隻を標本船とし、操業記録から漁獲量や漁場などを調査した。2006年における標本船の銘柄別CPUE（kg/net）は、1月に全銘柄、特に大銘柄が他の月の平均より約11倍と非常に高く、また11、12月には小銘柄のみが高くなった（図3）。CPUEに特徴がみられた1月および11月は、水道北部を中心に漁場が形成された。

(3) 生物精密調査：2006年度は毎月1回（12月を除く）、箕島町漁協で水揚げされた各銘柄を購入し、体長組成、成熟度指数および性比の季節変化を調べた。さらに年齢査定のために耳石を採取するとともに、成熟に関する研究のために生殖腺組織切片を作成した。年齢査定によると、大銘柄の漁獲が多かった2006年1月は1歳半～2歳魚、小銘柄が多かった11、12月は秋季発生群の1歳魚と春季発生群の当歳魚が混在していた。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

和歌山県資源回復計画作成事業瀬戸内海区漁業種別漁業者協議会において資源状況について説明した。

(2) 成果の発表

有田管内における水産試験場成果発表会において「資源低水準期のタチウオについて」という題目で発表した。

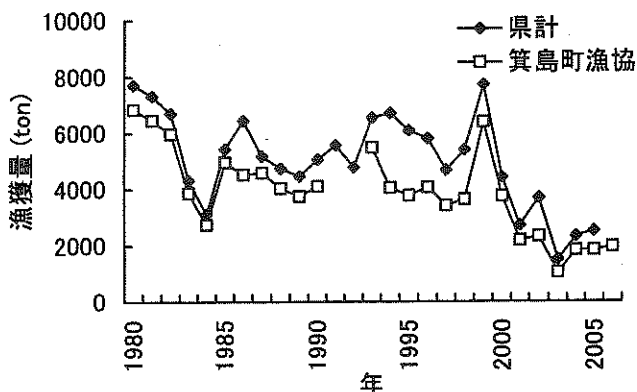


図1 県計および箕島町漁協におけるタチウオ漁獲量の経年変化

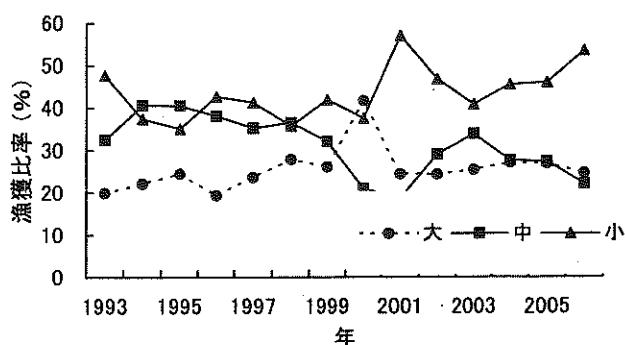


図2 箕島町漁協における銘柄別漁獲比率の経年変化

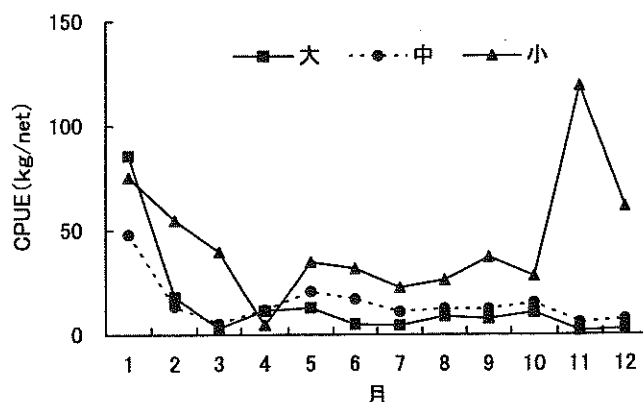


図3 2006年における小型底曳網標本船による銘柄別CPUEの経月変化